

34 函高専 チーム 中村研

kinectとロボットを用いた認知症予防

この研究では高齢の方々にロボットとkinectを使ったリクエーションを提供し楽しみながら認知症の予防をしていただくシステムを開発します。現段階では人の動作をロボットが真似して動くことが可能になりました。そこで皆様の動きをロボットで再現したいと思います。

○チーム代表：亀井博文
○共同研究者：谷内田健太

37 函高専 チーム GeoDesign Lab

空間情報をつかって
函館を“見・診・観”る

知っているようで知らない函館の姿を空間情報（空間的な位置についての情報とそれに関連付けられた情報）を使って（見・診・観）てみませんか？函館の何を「みる」のか、私たちの所にどうぞ確かに来てください。

○チーム代表：石山涼太
○共同研究者：塙田周

38 極東大 チーム カガーリン

ソ連・ロシアの宇宙開発の歴史

旧ソ連とロシアの宇宙開発の歴史と、開発に大きく関わった人物について、また、現在、世界が抱える宇宙開発における問題についてビデオとパネルで紹介します。ビデオの翻訳は先生方の協力の下、すべて学生たちの手で行いました。日本では馴染みのない名前も多いと思いますが、ぜひブースに立ち寄り私たちの研究をご覧ください。

○チーム代表：宮崎英龍
○共同研究者：長根山未来・松原俊子・佐野晃・浅川真人・水野夢嵐・甲斐有輝・星出愛子

39 特別参加 チーム 北海道函館西高等学校理科部

函館山におけるトビムシ相の調査

5年前より、函館山の土壌動物と環境との関わりについて調べています。特に、土壌中に生息するトビムシ相の変化を中心に行なっています。年に、土壌中に生息するトビムシ相の変化を中心に行なっています。これまでの研究成果と現在の研究内容を紹介します。

○チーム代表：青木貴之
○共同研究者：菅原悠真・佐藤莊王・小杉剛一・北代祐基・岩田聖・川島鶴人・小川一馬

1 未来大 チーム ミライケータイプロジェクト

ポケットに未来～アプリ～を

ミライケータイプロジェクトでは10年後の未来にありそうなスマートフォン向けアプリケーションを開発しています。開発しているアプリは「ポケクロ」「きらめく歩道」の2つです。それぞれが特徴的なものとなっています。実際に触ることができます。実際の機能を用意していますのでぜひご覧になってみて下さい。

○チーム代表：橋本祥
○共同研究者：浅沼佑紀・前川裕一・前川慎太郎・小澤玄渡辺悠太・閑谷仁志・前田公紀・副島康太郎・村上萌太田隼人・桂友輝

2 函館大 チーム みんなで広めようJバスの輪

町会主導による
コミュニティバス運営の可能性

陣川町は、市街地から離れた地区に約3,000人が居住しています。この地域の利便性を高めるために、本年4月より、町会が中心となって定期運行するバスを始めました。本研究では、これを継続するための課題をアンケートより考察しました。この試みは、地域活性化の新しい手段として注目されています。

○チーム代表：呉谷祐記
○共同研究者：松本芳世・松山翼・山田貴士・濱村龍之介・樋口将俊

3 北教大 チーム 木村ゼミ

ジェンダーの視点から見る
男性の育児休暇

性別役割分業という言葉がありますが、「男性が」育児休暇を得てして子育てをする姿をほとんど見かけません。調査では5割の男性が育休を取りたいと考えていますが、なぜ男性は育休で女性のように子育てをしないのでしょうか。「ジェンダー」という考え方からこれを考察して、この社会問題を発表します。

○チーム代表：谷口寛子
○共同研究者：稻垣悠子・滝代麗菜・小林駿太・坂井拓也・鈴木あすさ・古川修平

4 北大水 チーム 水処理：凝集ろ過

泥濁水浄化のエコ技術

私たちの研究室で開発した「エコ素材（大豆のタンパク質を原料とした生分解性凝集剤）」を使った泥濁水の浄化技術（特許第3440054）についてポスター展示を行います。体験実験を行うことで泥濁水を浄化する様子を観察できます。

○チーム代表：前田泰穂
○共同研究者：粟田和寛

5 大谷短 チーム ひょうたんベイビー

わたしの夢みる幼稚園

幼稚園教育は幼稚期の特性を踏まえ環境を通して行なうことを基本としています。授業や教育実習を通して、子どもたちが豊かで質の高い暮らしを営むための環境の大切さを学びました。教材、園舎、地域や自然環境、教師等、理想とする幼稚園像を探求します。

○チーム代表：久野ももか

6 函短大 チーム キラキラネーム緊急対策委員会

あなたは読みますか？ 星々名前

「愛心（あいしん）」と「波波波（さんば）」・・・。これは、実際に付けられた、子どもの名前です。このように奇抜な、難しい読み方の名前は、近年、「キラキラネーム」や「DON-ネーム」と呼ばれています。「キラキラネームのせいで就職できない？」といった問題を含め、現代の名前事情について緊急レポートします！

○チーム代表：中島大輔

○共同研究者：木村綾香・川奈野由花・佐藤直美

7 函高専 チーム 埋蔵文化財研究会

歴史と化学の接点
～永楽通宝はどこで作られたのか？

私たち埋蔵文化財研究会は現在知内町涌元地区で発見された涌元古銭と日高町資張で発見された銅張古銭についての調査を行っています。今回は蛍光X線装置を使用し成分分析を行い、その結果を三角タイアグラムにプロットで表示しました。分析結果とプロットの分布により、銅張と銀銭の判別を行いました。

○チーム代表：北村茉友
○共同研究者：小野美玲・加澤晴華・川上桐花・杉本紘小倉香・多田佳歩

8 極東大 チーム 訳者小屋

ロシアアニメ
「ジーハルカ」の吹き替え

2006年制作のロシアアニメ作品「ジーハルカ」を翻訳し、ライブ吹き替えをします。いたずら好きな女の子ジーハルカと彼女を食べようと企むキツネが織りなすコメディをお楽しみください。その他、にも可愛い動物たちも登場します。

○チーム代表：鈴木竜斗
○共同研究者：河瀬愛子・久保井俊樹・永松堇実

同時開催!!

15:30～16:30 2階特設会場にて開催

CCHビブリオバトル～学生による本のプレゼン～

「ビブリオバトル」とは…

バトル（発表者）がお気に入りの本を持って集まり、順番に一人5分でオススメ本を紹介します。2～3分のディスカッションを行い、「どの本を読みたくなったか？」で投票を行い「チャンピオン本」を決めるという簡単なルールで、どなたでも自由に観戦することができます。「人を通じて本を知る、本を通じて人を知る」どの本がどのように紹介されるか、学生達の本への想い、そしてプレゼンテクニックが見所です。

企画運営：ライブラリーリング（函館市内の図書館連携プロジェクトチーム）

アカデミックリンクの開催にあたり各企業の皆様のご協賛を賜りました。ありがとうございました。

ネットコトカ函館・（株）長門出版社・五稜郭タワー（株）・（株）コジマ店舗・（有）二和印刷・ホテル法華クラブ函館（敬称略・順不同）

はこだて高等教育機関 合同研究発表会

HAKODATE アカデミック リンク2012

2012
11/10
sat
11:00～16:30

会場：函館市青年センター

函館市千代台町27番5号

ブースセッション 11:00～16:30

ステージセッション 13:30～15:30

表彰式・交流会 17:00～18:30

同時開催 ビブリオバトル 15:30～16:30

～ 学生による本のプレゼン～

街が僕らのアカデミア

函館市内にある8つの大学・短大・高専では、学生・教員らが持つ「体験」「発想」「探究心」から生まれる様々な研究がそれぞれのキャンパスで進行中です。これらの一端を市民の皆様方・地元企業の皆様方にわかりやすく披露し、また各研究テーマの協力・連携の可能性を探るべく一同に集結します。

当日はブースやステージでの発表などを通して、ここ函館を舞台に日々繰り広げられている研究活動に触れていただければと存じます。皆様のご来場をお待ちしております。

主催：キャンパス・コンソーシアム函館

公立はこだて未来大学／函館大谷短期大学／函館工業高等専門学校／函館大学／函館短期大学

北海道教育大学函館校／北海道大学大学院水産科学院・水産学部／ロシア極東連邦総合大学函館校／函館市



Time table

11:00 ~ 16:30
ブースセッション
13:30 ~ 15:30
ステージセッション



1 未来大 チーム ソフライン開発プロジェクト

ぬり絵で解決！ ソフトウェアライセンス管理

業務支援システムと聞くとなんとなく固そうなイメージがしませんか？私達はそこに遊びの要素を取り入れました！未来大学をお客様として、ソフトウェアを管理するシステムを開発しています。デモンストレーションも用意してますので触ってみて下さい！

○チーム代表：前田実優
○共同研究者：赤石裕里花・有澤俊裕・柴田光・中島滉介・細川尚人・松田隼士・宮下昂樹・山上裕哉・渡辺清香

2 未来大 チーム 海洋系

iPadとディスプレイを用いた 水産資源管理システムの開発

私たちは留萌でITによる漁業支援に取り組んでいます。漁業者から提供された操業日誌、漁船のGPS情報から資源評価・管理に役立つ情報を割り出し、iPad、大型ディスプレイを用いて提供しています。当日は、そのデモを行いますので是非見に来てください。

○チーム代表：加藤武文
○共同研究者：八城朋仁・長田昌浩

3 未来大 チーム 高度ICT演習観光系プロジェクト

地域情報の公開と活用を促進する LODサービスの構築

私たちはITを用いた函館観光の支援に取り組んでいます。様々なWebサイトで提供されている情報を組み合わせることで、観光客が欲しい情報を簡単に取得できるようにするために、LODという仕組みの利用に取り組んでいます。当日は、LODの説明と、LODを用いた観光支援システムのデモを行います。

○チーム代表：高橋正輝
○共同研究者：永峰和弘・坂井麻里恵・似内勇太・山田亜美・兵藤允彦・工藤卓也・小野美郁・西本光司

4 未来大 チーム ミライケータイプロジェクト

ポケットに未来～アプリ～

ミライケータイプロジェクトでは10年後の未来にありそうなスマートフォン向けアプリケーションを開発しています。開発しているアプリは「ポケクロ」「きらり散歩」の2つです。それが特徴的なものとなっています。実際に触ることができる実機を用意していますのでぜひご覧になってみて下さい。

○チーム代表：橋本祥
○共同研究者：浅沼佑紀・前川裕一・前川慎太郎・小澤玄渡辺悠太・閔谷仁志・前田公紀・副島康太郎・村上萌太田隼人・桂井友輝

5 未来大 チーム Double Pendulum

二重振り子を体験しまSHOW!!

二重振り子は簡単な構造でできますが、動かし始めるところが遠えれば毎回動きが変わり、この形からは想像もできないような複雑な動きをします。当ブースでは実際に作った二重振り子や測定実験の途中成果を見ることができます。

○チーム代表：三澤良介
○共同研究者：川村元太郎・田場盛大・飛田有輝・山本泰毅

6 未来大 チーム AR函館観光ツアープロジェクト

AR技術を利用した 函館観光ツアーの企画と実施

本プロジェクトでは函館観光の活性化を目的として活動しており、これまでにAR（拡張現実）技術を用いた函館観光ツアーや、そのツアーアクションとしてオープンキャンパスツアーや実施しました。当日はツアーディレクターで使われたコンテンツのデモを行います。

○チーム代表：岸野亜理沙
○共同研究者：淡路拓也・大木開登・佐藤正徳・濱登強

7 未来大 チーム Scratch

Creating Learners - Learners Creating

Technology is believed to be the equalizer in education. The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) proclaims the use of technology in schools and it will transform education. Technology must enable learners to create the learning, beginning in elementary school. Here we will demonstrate how technology can enhance learning in other subjects.

○チーム代表：千田彩花
○共同研究者：佐藤郁枝・高石梨香子

8 未来大 チーム 道南施設IT支援プロジェクト

道南の施設予約をIT化でサポートする

公共サービスを提供するとき、利用者に電話や書類で申請をお願いしているのか？パソコンや携帯電話によってインターネットが普及してきた今日、それらを使用して面倒な手続きを簡単にするソフトウェアを提供します。我々が森町の施設予約管理用に作ったソフトウェアを函館にも広げていく活動です。

○チーム代表：藤原哲
○共同研究者：菊地純輝・花田洋貴・岡村萌生・齋藤創高橋永妃・森理美・浅井信・安永航・三笠弘貴

9 函館大 チーム エゾシカカレープロジェクト

エゾシカ肉の普及について

道央、道東だけでなく道南函館エリアにおいてもエゾシカによる農林被害が報告されている。エゾシカの友好利用と函館発信食材としてのエゾシカカレーの普及を目指します。紹介しながら、試食会を通してエゾシカカレーの魅力を広めています。

○チーム代表：荒木直人
○共同研究者：阿部桃子・木村政俊・中澤さおり・根本美久・平野瞳・藤塚早紀・松村栄那・吉田奈央

10 函館大 チーム 中島れんぱい

中島れんぱい利用者 および経営者アンケート

中島廉廣で3種類のアンケートを行った。利用客調査は日中の来店者及び中島れんぱいの定期イベント「れんぱい横丁」の来客111人、経営者調査は商店53軒中33軒から回答を得られた。中島れんぱいの現状を把握し、ホームページの新ページ作成にも役立てた。今後さらに調査を行う予定である。

○チーム代表：山田貴士
○共同研究者：池上穂司・中村大介・佐藤裕一

11 函館大 チーム 野外劇

函館野外劇来場者アンケート 及び出演者アンケート

函館野外劇に来場された方へアンケート調査を行い、来場者8,403人、有効回答数3,127通、有効回答率38.7%を集計。また出演者アンケートとして、個人参加の方と団体参加の方へアンケート調査を行い、個人参加付数50通、有効回答率58%。団体参加付数469通、有効回答数50.3%。

○チーム代表：佐藤裕一
○共同研究者：山田貴士・中村大介

12 函館大 チーム センター調査

3センター利用者アンケート

函館市青年センターでセンターフェスティバル来場者アンケート、利用者アンケート、利用団体アンケート。函館市地域交流まちづくりセンターでNPOまつりで参加者アンケート、来場者アンケート。函館福祉センターで老人大学アンケート、サークルアンケート、来場者アンケート、子供の体験学習アンケートの計8種を行った。

○チーム代表：中村大介
○共同研究者：山田貴士・佐藤裕一

13 函館大 チーム 私を野外劇に連れてって

野外劇字幕表示システム

市民創作函館野外劇を海外からお越しの方や、聴覚障害の方など、より多くの人に楽しんでもらうために今回のシステムを開発しました。本システムは、スクリーンや電光掲示板など、大がかりな設備を設置できない会場で手軽に字幕サービスを提供できるシステムです。

○チーム代表：奥田和樹
○共同研究者：小沢彩花・村上健太・東香帆・岡本綾香

14 函館大 チーム 大門研究会

函館駅前・松風町周辺の大門地区に関する調査研究

大門とは1934年まで存在していた「大門遊郭」入り口に存在した大門に由来している。戦後から1970年代にかけて賑わっていた頃の話を聞く一方、現在は何も残されていない。空き地が目立ち、衰退した用地を再び活性化するため、地元の遺産を地域の方の電送を元に「函館大門マップ」を作成いたしました。この試みは、地域活性化の新しい手段として注目されています。

○チーム代表：阪崎敏生
○共同研究者：佐々木孝太・杉本諒・佐々木翔洋・志村幸穂・浜田菖平

15 函館大 チーム みんなで広めようJバスの輪

町会主導による コミュニティバス運営の可能性

陣川町は、市街地から離れた地区に約3,000人が居住しています。この地域の利便性を高めるために、本年4月より、町会が中心となって定期運行するバスを始めました。本研究では、これを継続するための課題をアンケートにより考察しました。この試みは、地域活性化の新しい手段として注目されています。

○チーム代表：奥谷祐記
○共同研究者：松本芳世・松山翼・山田貴士・濱村龍之介・樋口将俊

16 北教大 チーム 日本語教育A

学術報告における接続表現の使用状況

「だから…」「それに…」「しかも…」私達が普段何気なく使っている接続表現。それを中国人留学生が書いた日本語の学術論文やレポートといった学術報告の侧面から調査してみました。どんな接続表現が使われているかを考えながら足を運んでみてください。

○チーム代表：古屋敷彩紀子

17 北教大 チーム 日本語教育B

非漢字圏の初級日本語学習者が 自立的に行う漢字学習ストラテジーの開発

非漢字圏の日本語学習者にとって、漢字学習は困難とされています。そこで私はチャンクという認知心理学の考え方を使った漢字学習法がその問題を解決するのに効果があるかを研究していました。何気なく使ってきた漢字を少し違った視点から見るとどういった「カタチ」が見えてくるのでしょうか？

○チーム代表：仲村真里奈

18 北教大 チーム 日本語教育C

留学生チーターへの支援活動

留学生の日本語学習を支援するチーターの皆さん、「困った！」を解決しようと、「チーター・ランチミーティング」を行いました。昼夜に集まり、疑問を解決したり、わかりやすい教方を考えたり、情報共有するランチミーティングです。今回は2012年前期の活動の内容とその成果をご紹介します。

○チーム代表：佐藤貴利

○共同研究者：木村美朝・桃井志織・小堀真由・溝口美帆

21 北教大 チーム エコフィード

エコなブタさんと環境教育

今年もモヤシ残さとホエーと乳酸菌を使ったリサイクル飼料（これをエコフィードといいます）を造り、大野農業高校の飼育する豚2頭に給餵する実験をしました。エコフィードを通じて高大連携した環境教育実践のせいかを発表します。そして、エコフィード豚は是非食してみて下さい！

○チーム代表：遠藤沙織

○共同研究者：綿谷ひまり

24 北大水 チーム ヒスタミン

ヒスタミン食中毒を防止しよう —安心して魚を食べるため—

ヒスタミン食中毒は、取り扱い失敗したマグロやカツオ等に蓄積されたヒスタミンが原因で起こります。実はとても身近に存在している食中毒なのですよ！私たちはそのリスクを減らすための方法を研究しています。安心して美味しいものを食べ続けるために、「食中毒」について考えてみませんか。

○チーム代表：丸山奏子

○共同研究者：伊藤緑希・柿坂将希・山地功平

27 北大水 チーム チーム脱Cd

水産廃棄物

北海道の特産品のイカは刺身・加工品などで消費されています。しかし、イカの肝臓（通称：イカゴ）には有害な金属であるカドミウムを含んでおり、ほとんど使われずに廃棄されています。そこで、イカゴを有効利用するためにカドミウムを除去する研究を行っており、今回はその内容を紹介します。

○チーム代表：西平武史

○共同研究者：岸和樹

30 北大水 チーム 昆布

安心安全な昆布を提供するために

昆布には多くのヨウ素が含まれています。ヨウ素は人間にとても必須栄養ですが、摂取量が多すぎても少なすぎても甲状腺に影響がでてしまう栄養素でもあります。昆布のヨウ素含有量は多すぎるため、ヨウ素をできる限り除去し、安心安全な昆布を提供することを我々は目指しています。

○チーム代表：木下洋輔

○共同研究者：田村俊介

33 函館大 チーム 国際化

函館の地酒をつくるII ～吟醸酒への道～

函館には本当の意味での地酒はない。我々は函館の自然（花）から日本酒醸造に適する酵母を探し続けていた。このたび、ついにその酵母を見つけ、個体の突然変異を起こさせること等をおこない、フルーティーな吟醸香のある日本酒の醸造に成功した！函館の魚介類に合わせるアルコールの本命は、やはり日本酒でしょう！

○チーム代表：磯村尚之

○共同研究者：佐藤彰則・吉崎大和

28 北大水 チーム 函館マリンファクター

未利用海藻と魚類廃棄物の有効利用

近年、環境変化などにより水産資源の減少が問題になっています。私達は、未利用水産生物や水産廃棄物から新たな有用成分の開発・利用研究を行っています。今回、チョウザメ皮のコラーゲン、紅藻ダルスのフィコビリタンパク質、魚類内臓の酵素について発表します。

○チーム代表：前田俊介

○共同研究者：其田もも子・伊藤滉祐

29 北大水 チーム インジケータ

コールドチェーンの 温度管理用インジケータの開発

要冷蔵食品で食中毒や品質低下を防止するには、温度管理が重要となります。そこで、私たちの研究室では、温度上昇や時間経過とともに色が変化していく「インジケータ」を開発しました！当日は実際のインジケータを持って行く予定です。食品安全に興味のある方はぜひお越しください！

○チーム代表：田島沙緒理

○共同研究者：田口愛弥子・山本貴志・須藤あゆみ

31 大谷短 チーム ひょうたんペイパー

素敵な保育者を夢見て

「こど